

モニタリング項目毎の評価担当WG等

参考資料2 別表1
(22年度第二回科学委員会資料)

評価主体	評価項目	No.	調査名
海域WG (13項目)	I、II、VI	1	衛星リモートセンシングによる水温・クロロフィルaの観測
	I、II、VI	2	海洋観測ブイによる水温の定点観測
	I、II、VI、VII	3	アザラシの生息状況の調査
	I、VII、VIII	4	海域の生物相、及び、生息状況（浅海域定期調査）
	I、VII	5	浅海域における貝類定量調査
	I、II、VI	①	航空機による海水分布状況観測
	I、II	②	アイスアルジーの生物学的調査(種組成、色素量(クロロフィルa量))
	I、II、VIII	③	「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握
	I、II	④	スケトウダラの資源状態の把握と評価(TAC設定に係る調査)
	I、II	⑤	スケトウダラ産卵量調査
	I、II、VI、VII	⑥	トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性
	II	⑦	トドの被害実態調査
	II	⑩	海水中の石油、カドミニウム、水銀などの分析
エゾシカ・陸上生態系WG (12項目)	III、VIII	7	エゾシカの影響からの植生の回復状況調査(林野庁1ha囲い区)
	III、VIII	8	エゾシカの影響からの植生の回復状況調査(環境省知床岬囲い区)
	III、VIII	9	密度操作実験対象地域のエゾシカ採食圧調査
	III、V、VI、VII	10	エゾシカの採食圧の把握に関する広域植生調査
	III、VIII	11	シレットコスミレの定期的な生育・分布状況調査
	III	12	エゾシカ越冬群の広域航空カウント
	III、VIII	13	陸上無脊椎動物(主に昆虫)の生息状況(外来種侵入状況調査含む)
	III、VIII	14	陸生鳥類生息状況調査
	III、VIII	15	中小大型哺乳類の生息状況調査(外来種侵入状況調査含む)
	III、VII、VIII	16	広域植生図の作成
	III、VIII	⑪	エゾシカ主要越冬地における地上カウント調査(哺乳類の生息状況調査を含む)
	III	⑫	エゾシカ間引き個体、自然死個体などの体重・妊娠率など個体群の質の把握に関する調査
河川工作物A P (2項目)	II、IV、VII	17	河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所および産卵床数モニタリング
	IV、VI、VIII	18	淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオシロコマの生息状況(外来種侵入状況調査含む)
適正利用・エコツーリズムWG (2項目)	II、V、VII、VIII	6	ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査
	V	19	利用実態調査
科学委員会 (7項目)	VI	21	気象観測
	VII	22	海ワシ類の越冬個体数の調査
	VIII	23	シマフクロウの生息数、繁殖の成否、繁殖率と巣立ち幼鳥数、餌資源などに関する調査。標識や発信機装着による移動分散調査。死亡・傷病個体調査と原因調査
	VIII	24	年次報告書作成による事業実施状況の把握
	VII	25	年次報告書作成による社会環境の把握
	VII、VIII	⑧	オジロワシ営巣地における繁殖の成否、及び、巣立ち幼鳥数のモニタリング
	VII	⑨	全道での海ワシ類の越冬個体数の調査

= 地元自治体、関係団体、専門家、その他の行政機関等に情報の共有を依頼する調査

※「ヒグマの目撃・出没状況、被害発生状況に関する調査」については、当面はヒグマ保護管理方針検討会議で評価する。